

【IV. 指標以外の観点からの評価】

取組 No.	指標以外の観点からの評価
①	・フェリー及び航空事業者による航路利用促進に向けた取組支援に加え、国の臨時交付金を活用して公共交通活性化促進事業を実施した。
②	・別府港-12m岸壁に仮ターミナルが開所し、LNG(液化天然ガス)対応の大型新造船が就航した。
③	・大分空港への海上アクセスの実現に向けて、ホーバークラフト3隻の建造と港湾・旅客ターミナル等の整備を進めた。 ・大分空港の目指すべき将来像を官民で共有し、戦略的に推し進めるため、R4.9月に「大分空港・宇宙港将来ビジョン」を策定した。 ・大分空港を起点としたMaaSによるシームレスな移動を実現するため、実証事業を実施した。
④	・駅や空港などの交通結節点から幹線バスへの乗り継ぎの円滑化を図るため、バス情報(時刻表、運賃)のオープンデータ化を進めた。
⑤	・物流ネットワークの充実を図るため、国道212号日田山国道路など、港湾へのアクセス道路の整備を推進した。
⑥	・増加する車両・貨物に対応するため、臼杵港の新フェリーターミナル等の整備を推進した。大分港大在西部地区ではRORO船ターミナル整備、別府港では埠頭整備等を推進した。
⑦	・大分流通業務団地において、卸売業や製造業等の5社に対して分譲を行った結果、全体の分譲率は98%(対前年13%増)となった。
⑧	・企業訪問や県内外セミナーの開催、RORO線利用促進助成事業費補助金の活用により、大分港発のシャーシ台数は昨年度より増加したものの、新型コロナの影響が尾を引き、台数は29,355台にとどまった。 ・ポートセールスにより、他港利用貨物の大分港(大在CT)への利用転換が図られたものの、一部航路の休止や中国向け輸出貨物の減少により、外貨の実入りコンテナ数は27,864TEUにとどまった。

【V. 施策を構成する主要事業】

取組 No.	事業名(4年度事業)	事務事業評価	
		成果指標の達成率(%)	掲載頁
①② ③④	九州の東の玄関口としての拠点化推進事業	75.0	362
③	国際航空路線誘致・拡充促進事業	—	362
③	大分空港を起点としたMaaS実証事業	119.3	363
⑤	(公)道路改良事業	—	368
⑤⑧	ポートセールス体制強化推進事業	66.7	363
	東九州海上物流拠点推進事業	89.8	364
⑥	港湾整備事業	—	364
⑦	流通拠点整備推進事業	112.8	226

【VI. 施策に対する意見・提言】

○九州の東の玄関口としての拠点化戦略フォローアップ会議(R4.8) ・港だけではなく、動脈となる道路の整備もしっかり計画して欲しい。	
---	--

【VII. 総合評価と今後の施策展開について】

総合評価	施策展開の具体的内容
B	<ul style="list-style-type: none"> ・九州の東の玄関口としての拠点化戦略に基づき、人の流れ・物の流れの拠点化を進めるための事業を実施する。 ・大分港大在西部地区では、国直轄、県事業一体となってRORO船ターミナル整備を推進していく。 ・別府港では、別府港再編計画に基づき、岸壁や埠頭の整備を推進していく。 ・大分空港の国際線については、韓国線の定着のための利用促進、中国・台湾その他アジア地域からの路線誘致に引き続き取り組む。 ・ホーバークラフトによる大分空港海上アクセスのR5年度中の運航開始を目指し、船舶の調達と発着地整備の取り組みを着実に進める。 ・ホーバークラフト就航を契機とし、西大分発着地をハブとした二次交通の充実を図るとともに、大分港西大分地区周辺の賑わい創出に向けた議論を開始する。 ・積極的に企業を訪問し九州の東の玄関口としての拠点化の進展に伴う大分流通業務団地の優位性をPRすることにより、早期完売を目指す。